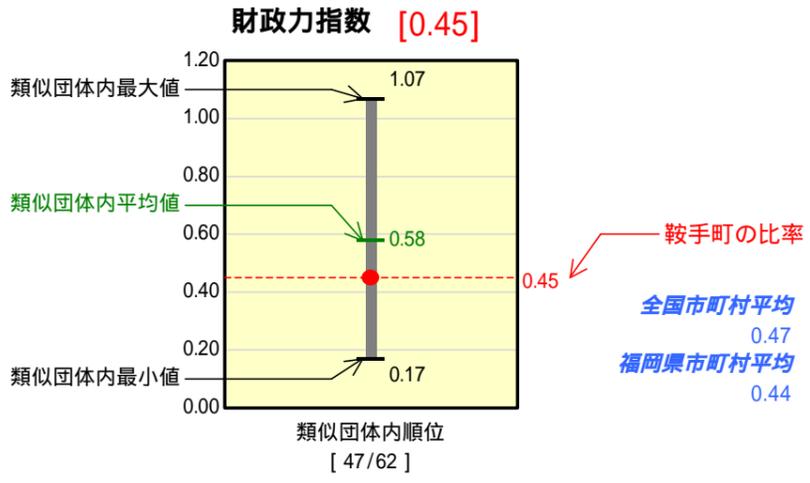


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

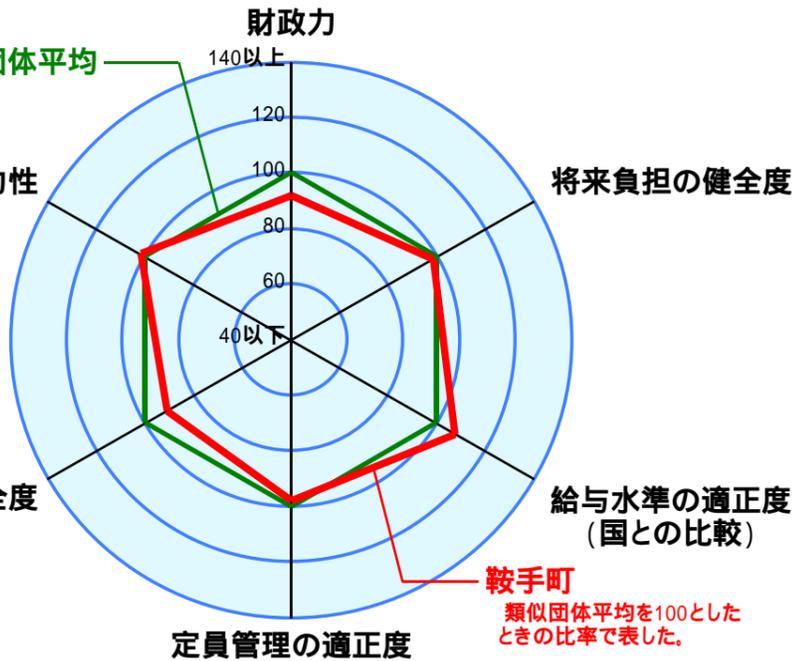
福岡県 鞍手町

人口	18,882人(H17.3.31現在)
面積	35.58 km ²
歳入総額	7,283,280千円
歳出総額	7,185,260千円
実質収支	98,020千円

財政力

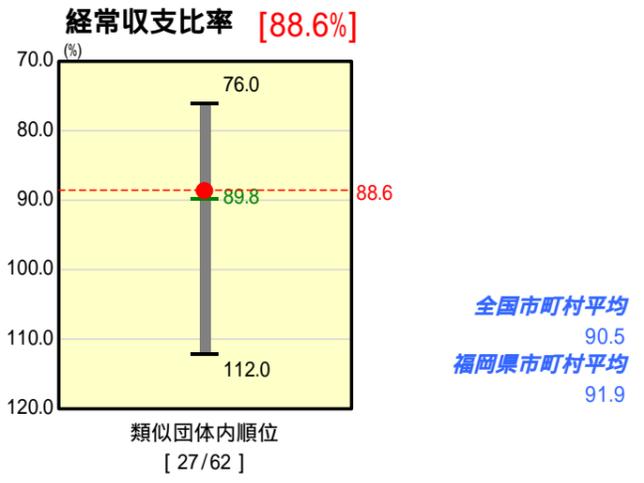


将来負担の健全度

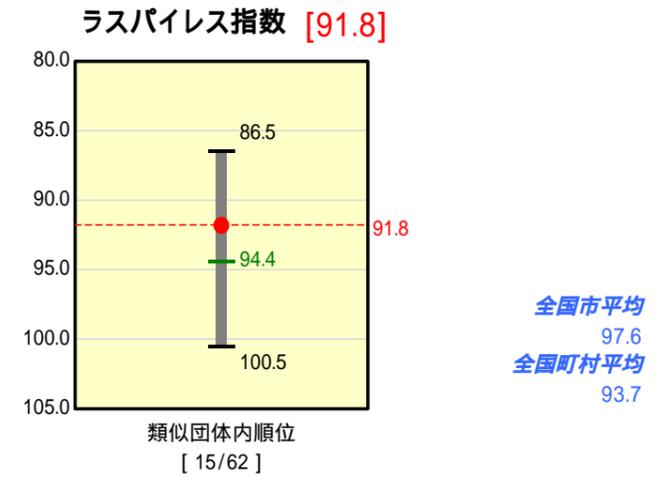


類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

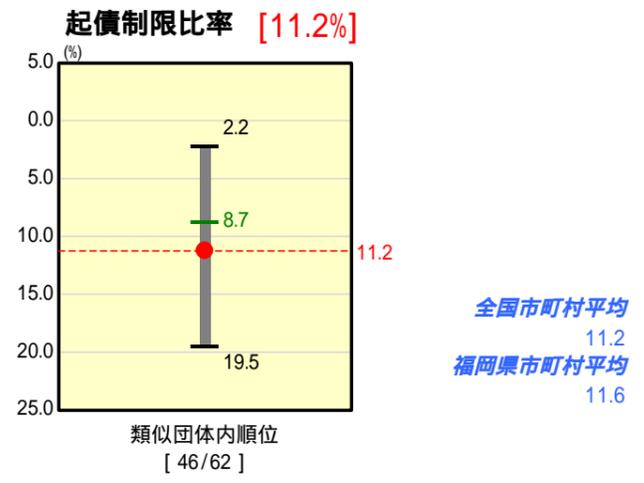
財政構造の弾力性



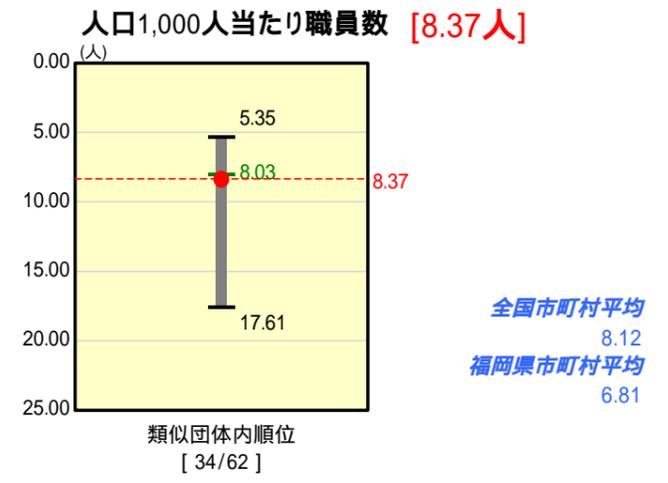
給与水準の適正度(国との比較)



公債費負担の健全度



定員管理の適正度



分析欄

財政力指数
人口の減少に加え、町内に中心となる産業がないこと等により、財政基盤が弱く類似団体平均をかなり下回っている。歳入では、目標収納率を設定し、町税や使用料等の収納の向上に取り組む。歳出では、組織の見直し(19課局から6課局減の13課局)、指定管理者制度の導入や民間委託等により歳出の徹底的な見直し(平成21年度までに年間5%の縮減)等、第4次行政改革集中プランに沿った施策に努め財政の健全化を図る。

経常収支比率
平成13年度から90%前後で推移しているが、健全である75%を大きく上回っていることから、第4次行政改革集中プランに沿って退職者の不補充による職員数の減(18人)や特別職等の給与・報酬の見直しにより人件費の削減(4年間で10%減)及び指定管理者制度の導入や民間委託等により経常経費の削減に努める。また、町税や使用料等の経常一般財源について、目標収納率を設定し収納の向上に努める。

起債制限比率
総合福祉センターや住宅改良事業等の大規模な事業を実施したことや類似団体にない就労事業(平成16年度償還額163百万円)の償還に伴い類似団体を上回って11.2となっている。このため平成18年度から実施する第4次行政改革集中プランに沿った施策に努め、大規模事業の実施を控えるなど新規発行(歳入総額の5%以内)の抑制に努める。

ラスパイレス指数
給与の適正化については、第三次行政改革により特殊勤務手当を10種類から3種類へ見直しを行ったが、残る3種類についても平成13年度以降支給していない。また、過去5年のラスパイレス指数は、特別昇給制度の未実施等により91.8以下で推移しており全国及び県内町村平均を下回っている。今後も17年12月に策定された集中改革プランに基づき、退職者不補充による総人件費の抑制に努める。

人口1,000人当たりの職員数
職員数については、第三次行政改革により組織の統廃合や事務の0A化などにより、普通会計で平成12年4月1日現在175人であったものが、平成17年4月1日現在で158人とし17人の職員数削減を行ってきた。人口1,000人当たりの職員数も8.84であったものが8.37となり定員の適正化に努めてきた。今後も平成17年12月に策定された集中改革プランにおいて、グループ制の導入や指定管理者制度による民間活力の導入により、平成22年4月1日までに退職者不補充によりさらに職員数18人(11%)削減する数値目標を掲げている。
(職員数は、給与実態調査01表 普通会計職員を記載)